

‘13. 12. 20

第6回日本海沿岸地域経済同友会 代表幹事サミット 報告書

開催日 平成25年12月13日(金)～14日(土)

場 所 沖縄県「万国津梁館」

参加経済同友会 14経済同友会

参加者数 経済同友会 117名(内沖縄経済同友会55名)

来 賓 5名

計 122名

【第6回の開催趣旨(抄)】

本サミットは、環日本海地域の経済・文化交流を目的として第1回富山大会を皮切りに島根、青森、新潟、北海道で開催され、本年は第6回目として沖縄で開催された。

経済のグローバル化が進展する中であって、豊富な労働力、購買力を持ったアジア地域との経済交流に大きな期待が寄せられている。

一方、中国は一時の勢いはないものの依然として高い成長力を維持しており、中国～東アジア一帯の新興国は「世界の工場」であると同時に、経済発展に伴って豊かな国へと変貌しつつあり、購買力を持った「世界の市場」へと世界経済をけん引するまで成長している。

成長が著しく、魅力あるマーケットである東アジア諸国、中国、ロシアと地理的にも近く、歴史的にも繋がりが深い日本海沿岸地域は、その高い成長性を取り込む可能性に恵まれた地域である。

沖縄は、琉球王国のころ富山の薬商人が北前船を使って北海道の「昆布」を沖縄に運び、代価として「中国の薬草」を調達するなど、沖縄を舞台として物流交易を行ってきた歴史がある。

今、沖縄はこのような地理的・歴史的・文化的な特性を踏まえながら空港のハブ化など「国際的物流拠点」の構築に力を入れている。

今回のサミットによって、今後の日本海沿岸地域間の良好な経済・文化交流の発展の一助となることが期待される。

【次第・内容】

1 開会

◎開会あいさつ 沖縄経済同友会 代表幹事 玉城 義昭(株沖縄銀行 頭取)

2 基調講演 I

◎演題 「琉球・沖縄の歴史」

◎講師 琉球歴史研究家 上里 隆史 氏

(NHKドラマ「テンペスト」の時代考証)

◎講演内容(抄)

①琉球の貝塚時代(約6600年前)

サンゴ礁の内海(ラグーン)の魚や貝を獲って暮らしていた。豊かな海のおかげで食

生活は豊か。日本の平安時代まで続いている。本土とは全く違った歴史を持つ。

②古琉球(約900年前)

農耕がはじまり、各地にグスク(城)と按司(あじ、領主)が争う戦国時代を迎え、琉球は3つの勢力(北山、中山、南山)が台頭するが、1429年琉球王国が成立。写真は1458年につくられた銅鐘で「万国津梁の鐘」、銘文には琉球が海外諸国に橋を渡ように船をかよわせて貿易を展開し、国には貿易品があふれていると記されている。1372年から中国(明)との外交が成立し、中継貿易で繁栄。中国からは主として陶磁器(高級品)、日本からは日本刀(げんかの10倍)、東南アジアからは胡椒、象牙など。日本海を通じて流れたものはラッコの皮など。



③近世沖縄(1609年～)

薩摩藩に征服され江戸幕藩体制に組み込まれてしまうが、社会を改革して日本と中国の間にある小国として存続した。琉球の「伝統」文化が開花した時期である。

石見銀山が銀の生産を開始(世界の1/3)、銀が経済の血となって、琉球貿易は下火となる。羽地朝秀(はねじ ちょうしゅう)による「蔡温(サイオン)の改革」、伝統芸能、さとうきび、お墓、シーサー、古い赤瓦。

富山の薬売りを通じて昆布、中国からは漢方薬、外交と文化力によって大国の間にあって生き残った。中国の大使節団を迎えるため豚の生産を奨励した。

楽童子(がくどうじ、琉球のアイドル)が多彩な芸を披露。1700年代に自然災害多発、財政破綻。さらには欧米列強のアジア進出。ペリー来航。

④近代沖縄(1879年～)

明治政府によって沖縄県が設置され、琉球王国は滅亡した。言葉が標準語化され、文化や慣習が変化、本土との格差が生まれた。1920年代は深刻な経済不況に陥る(世界の砂糖価格の下落によって、サトウキビ生産が落ち込む)、このことによって、移民が増えた。現在では世界中に移民した者によって「ウチナンチュウ大会」が開催されている。1945年日米両軍による太平洋戦争「沖縄戦」で多くの住民が死亡した。(20万人死亡)

⑤戦後沖縄(1945年～)

米軍の統治下に置かれ、基地が多くつくられた。広大な基地、抑圧的な政治、大模な復帰運動が起き、1972年に沖縄返還、日本へ復帰。再び沖縄県として現在

に至る。外交と文化力によって沖縄は生きてきた。「勝てないけれど負けない。」

3 基調講演Ⅱ

◎演題 「沖縄県が目指す国際物流拠点の形成」

◎講師 沖縄県副知事代理 商工労働部長 小嶺 淳 氏

◎講演内容(抄)

①沖縄県の概要

面積:約2,276km²(全国44位)

年平均気温:23℃

人口:約140万人(平成24年)-----人口の約80%が中南部に集中

出生率、年少人口割合、人口増加率、経済成長率-----ともに全国1位

年間観光客数:592万人(平成24年度)-----MAXは650万人

産業構造:第1次 1,7% 第2次 12.0% 第3次 89.9%

第2次産業の内 製造業は5%、あとは建設業。

県民所得は全国平均の70%。山陰や四国とブービー争い。

米軍専用施設・区域が全国の約74%集中

(県GDPの5.2%(昭和47年では15.5%あった。)は基地収入)

②観光入込客数と観光収入

96%は国内観光客、アジアを中心として海外市場開拓へ舵を切る。

昭和47年 観光客 56万人 観光収入 324億円

平成24年 観光客 592万人 観光収入 3,997億円

③那覇空港の国際旅客便

平成15年 19便→→平成25年 62便(台北23、ソウル14、香港11)

国内線は羽田に次いで第2位、路線数27、137便/日

国際便は急増 20便台→61便台

④IT産業の集積

平成15年 98社→→平成25年 288社(ソフトウェア開発、コールセンタ

ー中心)、IT産業の集積、260社24,000人雇用。

⑤GIX構築

グローバル・インターネット・エクスチェンジング

沖縄ー香港間の回線→通信速度5倍

⑥沖縄国際物流ハブ

・2007年 ANAと沖縄県と那覇空港の国際貨物拠点化合意

・2009年 那覇空港新貨物上屋完成

・2012年 ヤマトグループ進出

・2013年 楽天・ヤフーなどによる沖縄貨物ハブの活用

東芝Gのパーツセンター進出

⑦沖縄中継モデル(物流)の構築

日本全国の特産品をアジアへ翌日配達

香港フードエキスポ

沖縄大交流会・プレ交易会開催

東芝パーツセンター→沖縄からアジア・ヨーロッパ向け

⑧那覇空港・那覇港周辺への物流施設整備

新貨物ターミナル整備(2009年)、物流センター(2ha)、那覇港物流センター整備(8.6ha)

国際物流拠点産業集積地域、物流特区(那覇、うるま地区、名護特区は要件が厳しく駄目だった。)、海底トンネル整備。

沖縄は本土に比較すると、地震が少なく、震度5強以上が0である。



いつかは、アジアのハブになる沖縄

・沖縄の中継貿易が無かったら、明治維新も起きなかった？(薩摩藩は沖縄のGDPを使った。)

・那覇市内の「おもろまち」は米軍の住宅跡地。30億円の経済効果がある。

・沖縄の人間は基地を必要としていない。辺野古については県民70～80%が反対。

・昭和51年沖縄海洋博覧会から観光客増加。平成17年には600万人達成。

・香港からの新婚旅行のメッカ。クルーズ船。入込観光客平均 7万円/人。

・沖縄のリーディングカンパニー

観光リゾート産業、情報通信関連産業、国際物流拠点関連産業

4 閉会

閉会あいさつ 沖縄経済同友会 副代表幹事 東 良和 氏

この後は、18:30～交流レセプション